

○草津白根火山 1 月 23 日噴火の火口域の状況について

草津白根火山で 1 月 23 日午前 10 時頃に発生した噴火の火口域について解析を行った。

- (1) 噴火は鏡池北火口の北縁部にあった旧火口を中心に発生した。
- (2) 旧火口を中心に WNW-ESE 方向に配列した複数の火口列が形成された (図 1, 2)。火口列全体の長さは約 300m に達する。旧火口は長さ約 100m, 幅約 30m, 深さ約 30m の舟底型に拡大。西側にも火口が開口している (図 1)。
- (3) 旧火口近傍では倒木が認められ, 周囲約 50～100m の範囲内にある立木は枝葉がなぎ落とされている。
- (4) 噴火の約 2 時間後, 火口列は火山灰に黒く覆われており, 東端の火口からだけは弱い噴気が上がっていた。さらに 6 時間後には, 火口域周辺や旧火口部の底部はうっすらと積雪に覆われた (熱の影響がほとんど残っていない) (図 2)。
- (5) 投出岩塊により火口北斜面には無数のインパクトクレターがあり, 被災者が出たと考えられるスキージレンデやゴンドラは, 火口列から約 400m 以内の距離にある。
- (6) 火口から約 1.5 km の振子沢の南側急斜面などには, 投出岩塊の着地によって発生したと考えられる小雪崩が筋状に発生したのが認められる (図 3)。

(なお, 本解析には, 朝日新聞社の未公開資料を使用したほか, 毎日新聞社, FNN の公開資料, 1/24 撮影の TerraSAR-X 画像を参考にした。)

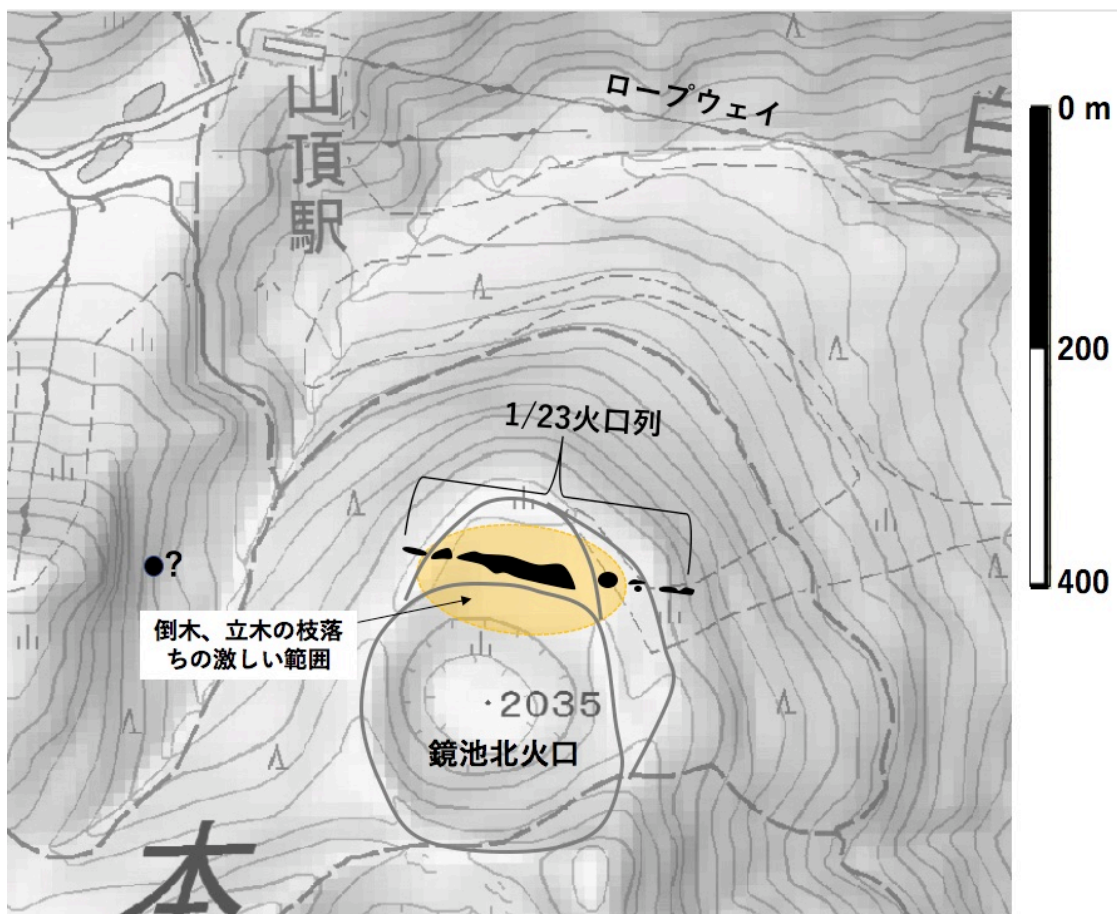


図 1 1 月 23 日噴火の火口分布。コマクサリフト乗り場付近からスキー客が映した噴煙の出口 (? 印。鏡池北火口の西) については正確な位置は特定できなかった。国土地理院の災害対策用図【草津白根山】を使用した。



図2 1月23日噴火の火口域や降灰範囲を示す写真



図3 登山道や道路沿い斜面の小雪崩(左上は火口の北東約200m。左下と右は振子沢の南斜面)